

第2期 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略【骨子案】

現状とめざす将来像

1. なぜ総合戦略を策定するのか

2010年の国勢調査に基づいた試算で、人口減少及び転出超過に歯止めがかからず、2040年時点で20～39歳の女性人口が半減する自治体を「消滅可能性都市」と見なしており、本市もこれに該当します（約1800自治体のうち896自治体が該当）。

これを受け、国及び自治体では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少を克服すべく、地域の特色をいかした活性化策等に取り組むこととしています。

第1期戦略に引き続き、切れ目なく地方創生に取り組むために第2期総合戦略を策定します。

2. 本市の将来人口（推計）

【第1期と第2期の比較】

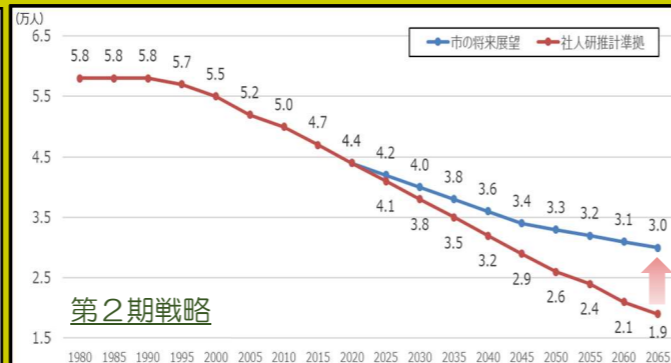
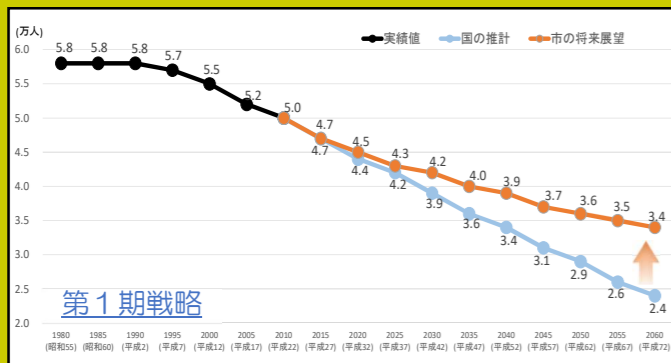
第1期（推計）
2060年 2.4万人

➡

第2期（推計）
2060年 2.1万人、2065年 1.9万人

（第1期と第2期の比較）

・転出超過が今後も引き続き発生するとの前提に基づく推計を反映した結果、2060年時点で△3千人



3. 人口減少による課題と取り組むべきこと

【人口減少による課題】

- ①地域コミュニティの担い手減少
- ②若い世代の転出超過
- ③観光・交流人口の伸び悩み
- ④子育て・教育ニーズに応じた支援充実

【取り組むべきこと】

- ①若者や子育て世代が主体的に地域コミュニティに参加したいと思えるまちづくり
- ②若者がかえってきたい、住みたいと思えるまちづくり
- ③観光・交流人口を拡大するまちづくり
- ④子育て世代が安心して子どもを産み育てられるまちづくり

4. めざす人口（人口ビジョン）

1) 将来展望の仮定

- ◆出生数：2035年までに合計特殊出生率2.15まで上昇させることをめざす
- ◆社会増減：2025年までに社会減（純移動）を半減し、2040年までに純移動の均衡（純移動率ゼロ）をめざす
- ◆子どもを育てながら働く女性が増えている中で、子育てを希望する20歳から39歳の女性人口の増加をめざす

2) 目標人口

短期目標（2025年） 41,800人 中期目標（2045年） 34,500人
長期目標（2065年） 30,000人

地方創生のための取り組み

基本目標	具体的な施策
(Ⅰ) 地域ぐるみで支え合い、笑顔がたえないまち	<ul style="list-style-type: none"> ①防災意識の向上、円滑な消防防災活動の推進 ②農村を災害から守り、環境を各世代で維持管理する活動のための新技術の導入 ③幹線道路や住宅地の湛水被害の軽減による交通機能の確保 ④安全かつ利便性の高い道路交通網の整備 ⑤健康で安心して暮らせるまちづくり ⑥女性が活躍する社会づくり ⑦地域力を創造するコミュニティの構築 ⑧快適で住みやすいまちづくり
(Ⅱ) 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち	<ul style="list-style-type: none"> ①田舎暮らしの促進 ②結婚と定住の促進 ③高齢者等の雇用・活躍の場の拡大 ④若者の働く場となる企業誘致の促進 ⑤吉備国際大学と連携した地域おこしの促進 ⑥起業家を育成する場所の整備と商店街の活性化促進 ⑦淡路島特有の再生可能エネルギーと新産業の創出 ⑧農業経営の効率化と農畜産物の安定的な生産 ⑨淡路瓦や淡路手延べ素麺を代表とする地場産業の普及促進 ⑩農業の担い手確保と育成 ⑪農畜水産物の高付加価値化 ⑫漁場の環境づくりと南あわじ産漁獲物の販路拡大
(Ⅲ) 魅力と味力があふれるまち（ふるさと）	<ul style="list-style-type: none"> ①観光交流人口の拡大 ②豊かな農畜水産物の味力発信と販売促進 ③地域資源（渦潮）の保全と関心・愛着を持った人づくり ④南あわじ市が大好きな子どもたちを増やす ⑤郷土愛を育む、松帆銅鐸などの文化財整備 ⑥マイカー以外の客層の拡大のため島内連携した公共交通網の整備
(Ⅳ) 子育てのよろこびが見えるまち	<ul style="list-style-type: none"> ①子育てしやすく安心して暮らせる環境と地域との協働支援体制づくり ②安心して子どもを預けられる環境整備と保育サービスの向上 ③保護者の経済的負担を軽減し、子どもの教育振興を図るまちづくり ④子どもの健やかな成長の見守り ⑤「学ぶ楽しさ日本一」のまちづくり ⑥子どもたちが放課後や休日に安心して過ごせ、体験学習等を通じ想像力や協調性を養える居場所づくり ⑦防災教育を通じた判断力や実践力の育成 ⑧子どもたちが安心して通学できる環境整備 ⑨子どもが安心して学べる教育環境の整備